

出句用紙(番号 /)

作者名

〇〇

たれかれが皆知り合ひて夏祭

〇

鎮守社や今も涼しき棕の洞

〇〇

祭壇の真澄の鏡秋に入る

〇

南国の山河に張りのある夕立

〇〇

ほうせんか昭和約つましき頃の庭

南柯句会

出句用紙(番号 乙)

作者名 真一

○		○○○	○○	
触れないで私の髪に鳳仙花	若き日の夢はいずこや鳳仙歌	火の国を切り裂く地震酷署なほ	砂日傘彼女に影を多く遺り	虫籠を斜に掛け網を振るキツズ

出句用紙(番号 3)

作者名 安藤町彦

④ 昼寝^{ひるね}覚^{さめ}めたしの形^{かたち}たしかめる

靴^{くつ}ひもの交差^{こうさ}乱れる長崎^{ながさき}己心

③ 助手^{すけて}席に残るシート原爆^{げんばく}己心

② 風鈴^{ふうりん}の身^みじろぎもせが午後^{ごご}六時^{ろくじ}

① 農婦^{のうふ}にも乳^ち房^{ぼう}のふたつ鳳仙^{ほうせん}花

出句用紙(番号 4)

作者名 米田よし

○○	団扇持ち粹すいな男や女やと
○○	恋歌こいうたを止めれば遠し蟬せみの声
○○	爪紅つめばにや船場のぼんに見初めはじめてる
○○	遠とほつ世へ秋の初風戎橋えびすはし
○○	終戦日今も弔ふ墓はなし

南柯句会

出句用紙(番号 5)

作者名

花山

弱虫の遠い故郷りんご園

はじけとぶ雨のやらいのほうせんか

弱虫の心やさしき夜明けかな

夏の家縦横無尽やるせなし

天守には宮本武蔵夏のあけ

出句用紙(番号6)

作者名

山本わこ

末づ子をまん中にして盆休み

同僚の机へ檸檬ひとつずつ

子の辞書の「性」の黒ずみ鳳仙花

電話口母笑はせて今朝の秋

すぐ渴く愛ならありて大蘇鉄

出句用紙(番号 7)

作者名 福田光弥

炎昼や下水の底に丸い空

山薔や戸棚の奥の処方箋

星涼し区画の端の精米所

どつどつど腹の子転く盆踊

日に焼けた写真にふたり鳳仙花

出句用紙(番号8)

作者名 平華

立秋の南座よこのたこ焼屋

秋暑しどうにもなぐぬ御堂筋

終戦日あの日もたしかさるうどん

師を送る校歌の御音き秋の野に

いま生きる事の幸せ鳳仙花

⑨

出句用紙

白井桃紅 とうこう

○
汗だくの配達員の走り来る

○
肌脱ぎの老爺の背なの般若かな

○
滝の音頼りに登る獣道

○○○
黙禱の長き祈りや蝉時雨

ほうせんか三角野球の騒がし

出句用紙(番号 1)

作者名

文蔵

武張りたる明治の祖父の月見草

四十年爪紅高く妣の家

鰻己の石をさかしけり

ナガサキの夾竹桃の真昼かな

瀬を速み闇に白鮠しうねん水尾立ちぬ

出句用紙

12

作者名 藤 久 三

雨後の庭溜まりし水に夏の蝶

背丈越す夏草の山休耕田

ひまわりの畑の迷路の阿鼻叫喚

真昼間は蝉も一時鳴き休む

母愛でし紅きフリルや鳳仙花

出句用紙(番号 13)

作者名 山崎 たか

ジジエ肉類張りいざ山登る

鳳仙花田んぼの横で咲き蒔ちて

ちの

夏木立・仮面の女神茅野の里

あざどし 湖上に返す花火かな

解体の重機の横や鳳仙花

南柯句会

出句用紙(番号 14)

作者名 二 罪

〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇
日盛の露地極楽の余り風	奈良町に団扇を選び風選ぶ	もう十年生ると決めて鰻入食ふ	膳本に思はぬ事実鳳仙花	鳳仙花遊びこころは哀へず

出句用紙(番号 15)

作者名 山下疾風

	○	◎	◎	◎
避暑地ありレイキャビクでふ北の果て	店先は金魚すくいの名人札	お隣りの雨戸が開 あ きて避暑 めいじんふだ 帰り	一族の遺影見つめし夏座敷	それぞれがここに住まじと鳳仙花

出句用紙(番号 16)

作者名

長 柳

④	夏は夏らしく心身晒すのみ
③	夕焼けの霞残りてロックフェスは佳境
	なかなかなの高音森林に透けし
	昼飯は日々まちまちの蟬時雨
	鳳仙花母五十年闘病中

南柯句会

R8
8/9
南柯

出句用紙(番号 17)

作者名 鯨島しづ子

〇〇〇

丁シヤジのカレーのしみや鳳仙花

〇〇〇

日傘からはみ出す赤のラブドセル

〇〇

せがむ子の肌の近さや氷水

一休寺 虎の屏風の前涼し

天草に悲しき伝聞 長崎心

○ 蟬レぐれ妻再入院の日となりぬ

○ 滴りを口に含みし磨崖仙

土かべの崩れしところ鳳仙花

○ ふるさとの蘭草の香る枕かな

○○ 大仙の頬のてかりや晩夏光

出句用紙(番号 19)

作者名 上 寛泰子



涼風や玉置神社へ呼ばれ着き

やまふし
ごまぎ た

山伏の護摩木焚くほど暑さかな

ぼちかつろうな

今年また八月八日ご朱印日

ゆんだ

ははこ

浴衣着てよい学ぶ母娘かな

りようせん

こみち

りうせん

稜線の小径より暮るる鳳仙花

南柯句会

出句用紙(番号 20)

作者名 守彦

駒草の稜線に落つ紅淡し

三つ編の少女の笑顔 鳳仙花

瞬きはカールの底へ 早星

夏座敷 其石を打つ音の遠かりき

アヘリアのわすかに揺れて羽の音

出句用紙(番号 21)

作者名

しゃほん

鳳仙花 小解理のしとろり

光

塩醬油 掬えり暮らし鳳仙花

〇

父のきや鳳仙花 店口の土壺へ

ピン・ポン・パン 鳳仙花の種 列しり

入隙にママ 行きにけり鳳仙花

よし

南柯句会

出句用紙(番号

22)

作者名

へちま

○ 飛び乗るを待ちて出だ秋立ちぬ

○○ 身に過ぎし得物引ッ提げよろり蟻

尖さは葉はに譲ゆり日陰ひかげの鳳仙花

蟬せみといふ鳴物入の指相撲

起き抜けの洗濯夏の絶頂期

夏暖簾くぐるうなじの美しさ

誰住まぬ実家の庭に鳳仙花

興福寺浴衣姿の異邦人

カツとなる女心や鳳仙花

夕暮れの朱雀大路に雷雨かな

24 号

出句用紙・作者名・宮本こぼ

〇〇閉店のラストソングや明易し

復元のライトの椅子の影涼し

大花火戒厳令の夜を裂く

〇鳳仙花障子一枚閉め残す

原爆忌まだ降り止まぬ黒い雨

ぶ出句用紙・作者名・山本打法 うっぽ

㊦ ダンス果て無人の舞台鳳仙花

㊦ 敗戦忌門司港駅のゼロマイル

㊦ 広島忌お好み村のソースの香

㊦ 長崎忌二畳一間のマリア像

㊦ 十一時二分ペン置く長崎忌

出句用紙・作者名・富野香衣

㊦ 伏し目なる青児の少女晩夏光

㊦ 妻の手が遮る二杯めのビール

ユニホーム真白きままに晩夏光

㊦ 昭和史の破片刺さりしままの夏

㊦ 呆けたることも幸せ鳳仙花

出句用紙

(番号

27)

作者名…(安藤)

英彦

〇〇	かを ひとよ 薫り立つ一夜孤高の月下美人
	ひややつこ 冷奴割引シールの心地好さ
	うまのせごへ 滝雲に打たれて涼し馬背越
〇	きょうちくとう 終戦日あの日も同じ夾竹桃
〇〇 兼題句	はしや 園庭に燥ぐ声なく鳳仙花

出句用紙・作者名・横田清史

トウキビを挽いで貰いて感謝して

○ 本州を大きく移動夏の旅

蝉時雨土砂降りほどの社かな

○ 港にて木槿とともに娘待つ

衝動のまま実を突つく鳳仙花

出句用紙・作者名・関洋子 29

千代子だないやみゆきだと鳳仙花

〇〇〇 観光バス降りて連山涼新た

〇 黙祷のサイレン朱夏の甲子園

京都駅經由土産は柿の葉寿司

◎ たどたどしひらがな並ぶ星祭

出句用紙(番号 30)

作者名 友澤一途

	〇		〇〇〇 ◎	
Ｂ面の意地や弾くる鳳仙花	書物千し書架改むる風の道	明く頃や朝輝が友見めぐころ	家じゅうに風を走らせ分皿の入り	しーるふ・ノヴァルム人新世の夏

南柯句会